

地域自立への処方箋

「四人のアントレプレナーから見えてきたもの」

朝日新聞松山総局 砂場 隆浩



人工海浜を掃除する若松進一さん。一番簡
単な地域づくりは掃除と若松さんは教育長を
退職するまで12年、出勤前の日課だった
＝伊予市の双海シーサイド公園で

た。昨年七月には根拠法である国土総合開発法が国土形成計画法になり、制度改革の理念として新たに「地域の自立的発展」が掲げられた。国が地方を庇護してきた時代は終わり、好むと好まざるとに関わらず、「地域の自立」は進まなければならない道と

なった。

「地域の自立」が叫ばれて久しい。地域が独自性を発揮し、輝くことは確かにすばらしい。しかし、地域の自立は、地域の立場からだけ主張されているものではない。国は、「国土の均衡ある発展」を掲げて国土開発を進めてきた。その柱になったのが「全国総合開発計画（全総）」だ。地方の隅々まで同じように社会基盤を整備しようとして三全総で三百七十兆円、四全総で千兆円の投資がなされた。ところが、二〇〇五年末で国債残高が約五百四十二兆円にもなる財政赤字のため、「国土の均衡ある発展」という理念を放棄せざるを得なくなっ

三位一体の改革が進められているが、地方財政を支えてきた地方交付金が大きく削減される一方、財源移譲は進んでいない。しかも、地方税の課税対象である企業の本店や所得者の少ない地方は、大都市圏に比べて、税収が少なくなる傾向が強くなり、地方の財政は厳しさを増すばかりだ。地方自治体の運営も、国による許認可で雁字搦めに縛られてきた。地方自治体の首長や職員は、国が示すスキームの中から自分たちに適したのを見つけ、うまく申請し、資金を地方に環流させ、道

路や施設を建設することが優秀さの証明だった。国から独立して、自由に立案し、自ら資金を調達した経験には乏しい。急に自立を求められて、困惑している地方も少なくないのではないか。

そんな思いの中で私は、（財）えひめ地域政策研究センターが今年二月、松山市で開いた研究サロン「地域の自立とはなにか」でパネリストを務めた若松進一さん、森本純一さん、東谷望史さん、横石知二さん取材した。朝日新聞愛媛版に「地域の自立をめざして」（<http://mytown.asahi.com/ehime/newslist.php?id=3900014>）として連載したが、人口が減少し、高齢化が進む小さな地域を率いたアントレプレナー（起業家）の歩みは、地域が自立するための示唆に実に富んでいた。

「地域の自立とは、地域が経済的に自立すること」と四人は口をそろえ、「地域に住んで、食べていけるだけの経済基盤を確立することだ」と言い切る。確かに、どんなに理念が高かろうと、豊かな自然や長い歴史があろうとも、その地域で食べてくことができれば、住民は地域を捨てるしか





馬路村農協のコールセンター。直販は消費者と直接対話できるのが魅力だが、馬路村農協ほど効果的に使っている組織は珍しい＝高知県馬路村で

ない。では四人は何をしたのか。

IT産業を誘致したわけでもなければ、新しい産業を創造したわけでもない。地元にあった地域資源を育て、経済基盤を確立していったのだ。柚子も、からりに並ぶ農産物も、その地でなければ採れないという名産ではない。夕日や葉っぱに至っては、どこにでもある。しかし、そのまま売ったわけではない。東谷さんは柚子そのものではなく、「ぼん酢しようゆ」「柚子飲料」という柚子加工品で勝負した。農業の二次産業化だ。森本さんは自宅から販売量を知り得るシステムを構築することで農家を「つくる人」から「売る人」へと変化させた。農家の三次産業化をしたのだ。横石さんは、だれも売りものではないと思っていた葉っぱをニュービジネスに仕上げたが、何もないところからの思い

つきではなく、笹の葉のツマづくりという伝統産業がベースにあった。若松さんも夕日をキーワードにじゃこ天、ちくわという鮮魚の加工品をヒットさせたが、やはり瀬戸内海に面した漁村という地の利に立脚していた。よそから移植するのではなく、その地にある柚子、葉っぱ、農産物、夕日という地域資源を見つけ、そ



「まるで日本庭園のようでしょう」と話す横石知二さん。高齢者が収穫まで何年もかかる樹種を植えるのも地域に一体感があるからだろう＝徳島県上勝町で

れぞれの物語をつくり、一点突破で全面展開を図ったといえよう。

そして、地域を丸ごと商品化する販売戦略で、地域経済を成長させていることも共通している。ゴミゼロの上勝町の葉っぱだからこそ、ゆつくり時ながれる馬路村の柚子だからこそ、すべてが夕日というキーワードに結実させた双海町だからこそ売れたのだ。柚子や葉っぱ、夕日はどこにでもあるが、馬路の柚子、上勝の葉っぱ、双海の夕焼けとなると固有性が生まれる。そのために、地域の環境整備、住民で情報を共有するシステムの構築、地域を日本の原風景として売り込むイメージPRなど様々な方策が採られて

いるが、固有性を育てるという根は共通しているように思える。

さらには、地域の高齢者を戦力の中心に据えたことも同じだ。今でこそ、葉っぱで年収一千万円、じゃこ天の年商五千五百万円と胸を張れるが、売れない時代もあった。乗り切れたのは四人を信じ続けた高齢者の存在があったればこそ。四人の地域を訪れて思うのは、おばあちゃんたちの笑顔の素晴らしいこと。高齢化が進んだ地域が駄目なのではない。高齢化が進んだと嘆く地域が駄目なのだ。長寿を喜び、尊敬を持つて共に歩む上勝や内子では、高齢者がパソコンを駆使して情報を収集し、自ら販売戦略を立てている。サービスで福祉施設に通う高齢者よりも、若者と共に働く高齢者は楽しそうで、そして、輝いて見えた。



昨年暮れに開いたプレサロン。「外から人が来る地域を目指せ」「交通の便もことん悪いと魅力になる」など熱く意見を交わした。左端は筆者＝高知県馬路村で

地域課題研究サロンの閉会后、インターネット掲示板「トークバトル放課後サロン」に参加された皆さんから感想やご意見をいただきました。そのなかから幾つか本誌に取りあげ紹介します。書き込まれた皆さん、大変ありがとうございました。



◎研修会に参加して 投稿者：岩井仁茂 投稿日：3月1日(水)

何れの方も、ナメクジが錨を下ろした様な人達に夢と希望を説き、意識を植え付けた、紛れもなくその人々の「心に火を点けた」粘り強い継続した情熱には敬服致しました。そして、皆さん大変なロマンチストですね。また、素晴らしい感性の持ち主です。感性は先天的なものだけでなく、気づかせ、磨かれるもの、と若松さんの発言にあったと思いますが、全く同感です。では如何に自分の感性を磨くか?、やはり感性を持っている多くの人と交わり、多種多様な感性に触れてみる事により培われる事も可能であると思います。

そして、皆さんに共通して感じる事に非常に「バランス感覚」に優れていることです。これは、リーダーとして成功する大切な条件であると思うからです。こんなカリスマ性のあるリーダーの後継者は大変ですね。思うに、これは能力とは別に「イメージ」が占める要素が大きいかと思います。さて、この日は、さしづめ「プロジェクトX」の総集編を見た感を持ち、元気をもらい会場を気持ちよく後にしました。

◎好きであるということ 投稿者：あじまる@朝フルの会 投稿日：3月1日(水)

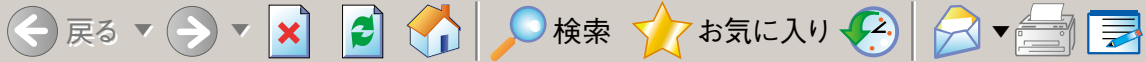
こういう会で睡魔に襲われなかったのは今回が初めてでした(汗)。参加して一つだけひっかかっている言葉があります。「感性」です。支配人さんが締めくくりに「プロモーションビデオの中で流れていた音楽を聴き分けられることが感性ではないか」という問題提起をされていました。偶然私は「あ、運命だ」などと思いながら見てました。数日間、サロンのメモ書きを読み返し、いくつかの討論の場面を思い出しながら、それを咀嚼し反芻するうちに、一つの命題を思い立ちました。「好きであるということが感性を磨くことにつながる」という命題です。講師として参加された方々は、異口同音に地域に対す愛着を持たれ、地域を何とかしたいという熱意を常にもたれています。そういう愛情や熱意がそれぞれの「感性」を育てたのではないのでしょうか。私はまず「好き」から始めてみようと思っています。みかんを愛し、みかんの木を愛し、みかんを育てる風土を愛し、そしてみかんに携わるすべての人を愛することから。

◎まずは、一步踏み出すこと。 投稿者：日銭労務士参上 投稿日：3月1日(水)

実践での4名のお話。よくある学識経験者や〇〇研究所主催とは異なり、それぞれ知った仲での雰囲気、進行、又極めて具体的なお話、特に売るためになすべきこと。横石さんの発言にあった、人の意識を変える努力。頭が下がると同時に、わが身に振り返ってみて。とにかく、まず、自分が地域で何かをやってみる。自分が動くことから始まることを実感です。

◎今ごろ放送中ですね! 投稿者：横山 史 投稿日：3月21日(火)

家にはCATVが入っていないので見られませんが、私にとっては4名のパネラーはもちろんです。一緒にお越しになっていた方ともお話できたのが良かったです。例えば馬路村の若い方などは「こんなに楽しい仕事はない」と口を揃えて話されていたのが印象的でした。



タイトル

トークバトル放課後サロン

◎気づき 投稿者：Rias 投稿日：2月26日(日)

個性の活躍する場所場面を創り、影響しあった結果をそれぞれの経験談でお話していただき、時には具体的なノウハウも漏らしていただきました。地域は個人の集まりだから、そこに住む個人それぞれが自立しなければ地域の自立はない。そのための数多くのヒントを学ぶことができました。ありがとうございました。

◎地域の自立 投稿者：馬路の山猿 木下 投稿日：2月28日(火)

個々の考え方によって自立への受け止め方は違うと思います。結局、地域づくりは人づくりだと思いますから、自分が感じて動くしかないのが答えだと思いました。いろいろ議論がありますが、その地域を本当に好きな人が多いほどその地域は、自立できると思います。地域づくりは相手をあてにすると、相手がこないときは腹が立ちます。でも自分が好きでやっていると感じたら腹はたちません。コツコツ地道ですが頑張るしかないと思います。基本的にその地域に来るお客さんは、その地域の生活文化を見に来てるとおもいます。お客さんお客さんではなく、50:50の関係をいかに作れるかが鍵のようにも思います。またそんな方に訪れてもらいたいですね。10年後20年後にむけての取り組みをやっていく上で、そのヒントとして色々聞けてよかったです。後は地域に置き換えてやりがい、自立につながるやり方をもっと考えてみないといけなと感じました。人は理屈でなく心で動きますからね・・・けど収入もちょっとあったらいいですね・・・

地域づくりに答えはないですもんね。

◎「自立とは何か」に参加して 投稿者：大河内 結子 投稿日：2月28日(火)

私はみかん農家の主婦です。「みかんは安い安い」と言われ続けて久しい。安くてもしんどくても半分は仕方なく続けていたものです。そんな時、全国に女性起業家の話題を耳にするようになってきました。葉っぱで1億円・・・ごっくんジュース・・・からりの産直・・・夕日が日本一・・・。私にとってあこがれの夢のような待ちに待った日を迎え、参加できたことに感激と感謝以外に言葉がありません。「自立」立場によって大変かなとおもうことがあります。でも、周りに振り回される事無く、自分の意志でどうするかをきめること。そして、私はいつの時も楽しみながら輝いていたいものと思っています。

4人の方のバトル本当に楽しかった！たくさんの成功、失敗をもっともっと聞きたいです。

◎勉強になったケーススタディー 投稿者：鎌田 秋吉 投稿日：3月1日(水)

4人の講師の話で一番参考になったのは、やはりケーススタディーです、具体的には物づくりでもソフト造りでも、たくさんの壁があることを痛感しました、目標を決めたらいかに困難が伴おうとも達成に向かい邁進すること、それも”へこたれず笑顔”で貫くことができるかと思います。しかし、我々は「身の丈にあい長く継続できる地域づくりが大切」と思っています。答えは一つではなく無数にあると確信しています。